

倉敷市教育委員会における校務の情報化への取組み

－ 学校事務の効率化から校務の情報化へ －

倉敷市総合政策局政策推進部情報政策課 課長主幹 門田 哲也

キーワード：学校、イントラネット、OSS、OSP、学校事務、校務、情報化

1. はじめに

倉敷市では、平成14年度に、総務省の補助事業である地域イントラネット基盤施設整備事業や旧来の学校系インターネット用の倉敷教育ネット等を統合して、倉敷市光ネットワーク“かわせみネット”を構築し、利活用を中心に機能の拡充整備を行って来た。

また、“かわせみネット”構築と同時に、教育委員会と学校間の事務の効率化を促進するため“倉敷市学校園ネットワークシステム”を構築し、グループウェアをコミュニケーションポータルとして位置づけ、学齢・学籍、就学援助、学校保健、学校給食、備品管理、財務会計システムを稼働させた。

こうした中、平成16年度Eスクエア・アドバンス、教員事務調査「校務ICT化モデル要件調査」において実証実験フィールドとして参加した。

さらに、昨年度はEスクエア・エボリューション、Open School Platform「総社市倉敷市地域プロジェクト」で校務のICT化での実証実験を実施し、今後の校務の情報化への取組み課題の検討を行った。

そして、今年度は、昨年度に引き続き、「OSPパッケージ」に係るOSSデスクトップ環境の導入・活用・運用において民間企業等によるサポートを受けて継続利用を行った。

2. Eスクエア・エボリューション、Open School Platform「総社市倉敷市地域プロジェクト」で校務のICT化での実証実験結果について

2.1 実証実験概要（詳細は、平成18年度のEスクエア・エボリューション成果発表会冊子のプロジェクトや実践校の発表頁、10、30、36を参照下さい。）

小学校1校をモデル校として、OSSを利用したネットワークブート型のシステムを導入し、セキュリティ面を重視したシンクライアントとして、職員一人1台での校務処理利用を行った。さらに通常はWINDOWS OS使用PCとしての併用も含めて、以前の実証実験の課題（文書の電子化など）も合わせて検討を行った。

学校では、次のような前提で取り組んだ。

「校務」という言葉に対する学校職員の意識統一を

「子どもの指導を直接行わない時間で、直接的に子どもの指導（教科指導・生活指導）に関係しない事務処理」と定義して行った。

例えば、出席簿の整理、会計処理、校務分掌の計画立案など

2.2 実験結果

OSSデスクトップ環境での利用においては、当初、利用環境の変化に伴う混乱が予想されたが、あまり大きな混乱も無く利用されていた。

シンクライアントの利点であるリモートメンテナンスによるローコストサポートやセキュリティ確保について実導入の利点として見えてきた。

導入時期における教員のICT利用をサポートする為には、ICT授業サポートの経験があるICT校務アシスタントの活用が有効であることが実証された。

文書等の電子化を行う過程での、学校現場での工夫（効率化）が業務改善に結びつくこと、また、そうした取組みに教育委員会事務局などの支援が、そうした改善を推進する力になることが再確認された。

2.3 課題

学校現場からは、

教員には一人1台のパソコンを準備して実証実験を行ったが、教員以外の学校関係者にも必要であり、パソコン等の機器の増設と利用後の利用者のセキュリティ確保が必要であることが分かった。

共有するデータの利用についても、より活用しやすい保存や管理方法の工夫が必要であることが分かった。

業務改善の観点からは、

「文書の電子化の推進」と「決裁の電子化の推進」が早急に取組み実現する課題であり、こうした取組みの中で教育委員会や学校間での書類のやりとりの見直しがなされ、効率化されると推測されるので、学校関係者（教員のみでなく）に情報端末を一人1台として利用できる環境を整備し、校務データの電子化・共有化を促進する仕組み（ソフトウェア）の導入と利活用の促進が最優先課題であり、平成16年度の実証実験時の課題は、セキュリティ面での技術標準化とさらなる具体化においては、見通しが立ちつつあるが、その他の課題については、そのまま今後の課題として残った。

